

岐阜分室便り 『建設技術フェア2007in中部』に出展して

岐阜分室長 大竹 良昌



11月7日(水)、8日(木)ナゴヤドームにおいて「建設技術フェア2007in中部」が開催され、昨年引き続き出展をいたしましたので、その概要を報告します。



本フェアは今年で11回目を迎えるもので、“豊で安全なくらしと環境の調和をめざして”をサブタイトル、‘知っている?建設技術!’をキャッチフレーズに

- ①産・学・官の技術情報交流の場を提供し、技術開発や新技術導入の促進に資する。
- ②建設分野を専攻している学生に技術開発の現状と今後の方向性を紹介する。
- ③次世代をになう小中学生が、ものづくりや環境学習等を通じて建設技術の魅力を体感できる場を提供する。
- ④建設技術の魅力と社会資本整備の必要性を広く女性・親子等を含め、一般の方々へ紹介する。

を目的に開催されました。

会場となったナゴヤドームは、地下鉄の駅に近いという交通の便の良さ、担当事務所の近く、さらには展示物設置機械や運搬車両がドーム内に入れるという利点から昨年に引き続き選定されました。特に今年は、CS、日本シリーズの優勝ドームの名残のある会場であり、観衆の声援が聞こえるようでした。

本年の特色としては、

- ①屋外会場での大型機械の操作体験等の実施
- ②環境対策や災害について展示エリアを充実
- ③環境をテーマとした講演会
- ④永年出展者への感謝状の授与

が新たに加えられ、出展者は、出展募集テーマ(5)・活用分野(10)・工種分類(36)を予め決めて応募し、出展採択を得ることになりますが、今年は193の技術出展と26の県認定技術がありました。また、同

時に‘情報発信・体験ゾーン’、‘技術相談ゾーン’、‘道の駅 紹介ゾーン’も昨年と同様設けられました。

模型、材料見本、映像のほか女性による技術紹介



など出展方法を工夫し、多くの来場者の確保に努められた。

岐阜分室は、「良好な環境を取り戻し美しく持続可能な国土の形成に関する建設技術」の募集テーマで「河川分野」に【水辺空間に関する、調査研究及び技術開発】という出展技術名で事業紹介パネル展示と出版書籍の紹介をしました。

間口も展示室も広がったが、パネルだけの展示で



あったため来場者は少なく、出版物や無料配布書籍を見られる人が多かった。パネルは岐阜分室で製作(企画部等の協力を得て)したが、サイズが小さく、隣(模型や型紙の配布)に比し寂しく感じられた。

フェア期間中の総入場者は約14,400人で、昨年より300名増え、技術系高校、大学の他ナゴヤドーム近隣の小学校から多くの児童が見学、体験と会場内がにぎわっていた。